



診断がつかない熱でお休みをする園児も多くなっています。気温が下がると乾燥した状態も続くため、体調を崩しやすくなります。適度な換気や、こまめな手洗い・うがい、適度な加湿を心がけるなどご自宅での感染症対策にご協力ください。

インフルエンザに注意

急に気温が下がり、インフルエンザの流行も始まります。気温が下がると空気も乾燥しやすく、ますますウイルスが広がりやすいです。
できる限り人混みを避ける、場所に応じてマスクを着用する、手指の消毒・うがいをするなど、感染防止対策にも心がけましょう。また室内の加温・加湿も有効です。

🍊 症状・特徴

突然の発熱、悪寒、頭痛や関節痛、倦怠感が特徴です。風邪症状が出ることもあります。乳幼児は特有の症状が少ないため風邪との見分けが付きにくいです。潜伏期間は1～3日。脳症や肺炎・気管支炎などの合併症をおこすこともあります。インフルエンザはA, B, C型があります。近年国内で流行しているのはA型2種類とB型と言われており、ワンシーズンで何度かかかる恐れもあります。

🍊 予防

インフルエンザウイルスは冷たく乾燥した部屋を好むため、ウイルスが空気中を浮遊する時間も長くなります。加湿器の使用、洗濯物や湿ったタオルを干すなどして湿度を高くし、部屋の温度も20度以上を目安に設定しましょう。こまめな換気で空気の入替えも大切です。重症化を防ぐためにも毎年のワクチン接種が有効です。(卵アレルギーがある方は病院に相談を。)

発症後5日間、
かつ解熱後
3日間。

登園許可書が
必要です!!

インフルエンザ・登園基準



予防接種後は登園できません

予防接種を受けた後は副反応が出る場合もありますので、ご自宅にて様子を見られますようよろしくお願い致します。

RSウイルス感染症と

ヒトメタニューモウイルス感染症



どちらのウイルスも症状が似ており、肺炎や気管支炎などの合併症を起こしやすい病気です。月齢が低いうちに感染すると、呼吸困難を起こしやすく重症化しやすいため、注意が必要です。迅速検査により診断がつかます。

症状

4～5日の潜伏期間の後、鼻水、咳、発熱などの風邪に似た症状が現れます。症状がひどくなるとゼーゼー、ヒューヒューといった喘息の様な呼吸になり、呼吸困難を起こします。どちらの病気も特効薬はなく、対症療法による治療になります。症状が続いたり、ひどくなるような場合は、早めに病院へ相談しましょう。

当園ではRSウイルス・ヒトメタニューモウイルスの診断を受けた場合、登園許可証が必要になります。
保育園は集団生活です。園での感染症拡大防止のためにも病院での検査をお願い致します。
症状が治まり、食欲・元気が戻ったことを確認してからの登園をお願い致します。

